ラナンキュラス新規栽培者の支援

■　管内ラナンキュラス生産者等　■

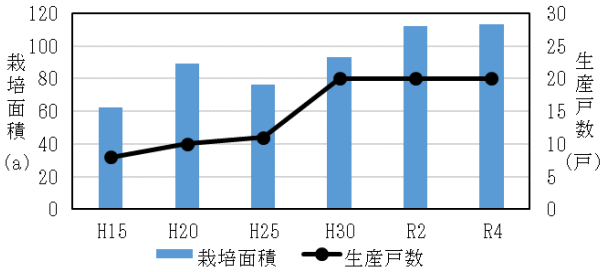
（東讃農業改良普及センター　山本和人）

●対象の概要

ラナンキュラスの栽培は、昭和50年代後半にさぬき市長尾地区から始まり、近隣の寒川地区や大川地区に広がり平成５年頃に1.2haにまで増加したが、購入種苗の不具合や株枯の多発などで平成17年には0.5haまで縮小した。

しかし、香川県農業試験場による茎頂培養及び増殖培養技術の開発によって、ウイルスの低濃度化が図られ、選抜系統の優良種苗の供給が始まったことで、高品質安定生産が可能になり、県全域に栽培が普及した。さらに、品種育成が進められ、県オリジナル品種の「てまり」シリーズが誕生し、色彩のレパートリーも増えていったことで、市場評価と消費者需要も向上し、栽培面積、生産者数が増加した。

令和４年には、県内で58戸の生産者が約2.6ha栽培するまでになり、管内では、ＪＡ四国大川ラナンキュラス研究会と同中央地区花卉部会を中心に、個人生産者も含めて20戸で113a栽培されている（図-１）。栽培品種は、オリジナル品種の「てまり」シリーズが約80aと最も多い。



図－１　東讃地域のラナンキュラスの栽培面積と生産戸数の推移（東讃普及センター調べ）

ラナンキュラスは、簡易ハウスを利用し、凍結を防止する程度の加温で栽培が可能であることから、生産コストが低く収益性が高い品目として注目されている。このため、野菜などの生産者が新たな経営品目として導入したり、新規就農者が経営の主品目として取り組む動きがある。また、栽培に興味を持ち具体的な情報を得ようと、問合せが多くなっている。

●課題を取り上げた理由

近年、ラナンキュラスの栽培に取り組む生産者が増加傾向にあるが、従来であれば、花きの生産者が品目変更や新しく導入するのが常であった。しかし、野菜の生産者や農業経験がない方が短期間の研修を受けて新規就農する場合など今までになかったケースが増加している。

そのため、基本的な花きの栽培技術や知識が不足しており、花き栽培特有の栽培法や肥培管理などが分からず戸惑う生産者が多く、生産者に寄り添った細やかな指導が不可欠である。そこで、新規栽培者に対して栽培準備段階から施設や設備環境も含めた基礎的な栽培指導を重点的に行った。

●普及活動の経過

１　定期的な勉強会への誘導

花き専門指導員を講師として、県内全域を対象に、年間５回程度、既存の生産者をはじめ、新規栽培者や栽培希望者を参集し勉強会を開催している。

ラナンキュラス勉強会

勉強会では、県内統一の指針として、県農業試験場の試験データや普及指導員による現地調査データ、ＪＡでの切花調整や出荷方法などを取りまとめて花の里かがわ推進委員会が作

成した「てまり」シリーズに特化した栽培マニュアルを活用している。

既存の栽培者には定期管理の確認として、新規栽培者や栽培希望者にはこれからの栽培管理の勉強の場として、様々な立場の方に参加を促し、基本的な栽培知識の習得を図った。

2　土壌診断および個別巡回指導

全生産者を対象に、栽培前に土壌分析を実施し、結果に基づく施肥改善や基肥量の指導を行った。また、併せて病害対策の基本となる土壌消毒について、各生産者のほ場に合わせた方法等のアドバイスを行った。

さらに、新規栽培者を中心に生育初期と２番花前の時期にＪＡ担当者とともに管内全域のほ場巡回を実施し、各ほ場に対応したアドバイスを行うとともに生産者のレベルに合わせた技術指導を行った。

新規就農者への栽培指導

特に、新規就農者は、研修等を受けて栽培を開始したものの、花き栽培の経験はもとより農業経験も少ないため、基本的な農作業や栽培管理技術が未熟で、マニュアルでは理解しにくい部分もある。そのため、株の生育状態や個々の作業等について、できるだけ現場で実践して理解してもらい、後に自己判断で管理できるように生育確認も兼ねて頻繁に訪問し指導した。加えて、経営面や作業前の不明な点などは、普及センターに相談してもらい、アドバイスすることで不安の払拭に努め、栽培に集中してもらうことを心がけて活動した。

また、新たな取り組みとしてレイズドベッドでの栽培を開始した栽培経験の浅い生産者に対しては、施肥管理に不明な点が多いことから、土壌中の養分の状況を把握するため、生育ステージ毎に年８回程度実施して、そのデータに基づき、生育状況も考慮しながら施肥等についてアドバイスを行った。

3　新規栽培者や栽培希望者の仲間づくりの支援

新規栽培者が部会や個選の枠を超えて生産者同志で交流できるよう、既存の生産者や新規の生産者を紹介してほ場見学を行うなど交流するきっかけづくりを行った。また、栽培希望者には、勉強会等で同様に紹介し、仲間づくりを支援した。

●普及活動の成果

1　栽培マニュアルの活用や勉強会による栽培技術の早期習得

新規栽培者に対して、栽培マニュアルを利用した指導や県内全域を対象とした勉強会への参加によって、効率的に基本的な栽培技術の習得を図ることができた。勉強会に参加することで知り合った既存の生産者にいろいろと聞きやすく良い交流の場にもなった。栽培希望者においても、近隣の生産者と知り合い、栽培の状況を見に行ったり話を聞いたりすることが可能になり情報収集が容易になった。

2　個別指導による技術向上

生産者の状況に応じて栽培開始前から細かな支援を実施したため、大きなつまづきもなく順調な生産につながった。

●今後の普及活動の課題

ラナンキュラスは、施設を利用する品目の中では比較的低コストで栽培を始めることが可能で、高収益を見込める品目ではあるが、特有の技術が必要である。そのため、引き続き、ＪＡ等と連携を図りつつ、取組み前の段階から十分な理解を得た上で栽培開始できるように、重点的に指導を行う必要がある。